



12年前日記

2000年1月3日（月）

山田夫妻

『12年前日記 2000年1月3日(月)』

【2000年1月3日(月)】*2012年1月3日(火)記

朝10時起床(ということは、昨晚は徹夜したわけではないようだ。ううなんでもない、コッチ(2012年)の話。アッチ(2000年)の話へ行け!)。相変わらず10時を過ぎると部屋がサウナ状態でとても寝てられない。荷造りする気も起きず、この280Bに何連泊目か。

10時30分、マックでビックマックセットにて朝昼飯(100B)、深い意味もなく早めに出掛ける。エアコンが涼しく心地いい。しかもタイのマックはポテトにケチャップつけ放題だ。さすがケチャップ大国。

そうだ、年末年始休みが明けたら、このマックを俺の会社(参照するまでもないが一応、<http://p.booklog.jp/book/41543>)のバンコク支社にしよう。

とりあえずバンコク支社の景色のいい窓際席を社長室としよう。

社長業は多岐に渡るが、今はポテト一本一本に丹念にケチャップをなすりつけてはチュパチュパ吸っては二度漬け三度漬けの繰り返し業務が主だ。

今持てる小さなチャンスを最大限に生かすことすらできないものに、次のチャンスは来ない。今は目の前にあるケチャップつけ放題をがむしゃらに生かし、腹持ちをよくすることに専念する。

ま、大事なのは発想の転換だ。隙間産業の不文律だ。

かといって、仕事仕事ばかりで気が張って逆には逆に効率が悪い。たまには肩の力を抜いて、接待マックと決め込みましょうか。

「いやいや、さすが社長、かなりイケる口ですね。ポテトが上手ポテトが上手」

「おいおい、あんまりおだてんでくれよ。眠っていたポテト勝負師の血が、ケチャップが騒ぎ出すじゃないか」

「ちょ、ちょっと、社長、それは反則大技過ぎます、ストローにケチャップなんて...おみそれいたしやした」

「分かればよろしい」。

あ〜、ホントくそヒマだなあ。いくら正月三が日とは言え、未来ある24歳の若者が野望とともに乗り込んだ異国の地でひとり、ケチャップ社長ゴッコしている場合じゃないだろ! そうだ、もうこうしちゃられない。エアコン効き過ぎだ! 長っ尻の俺に対する店側の嫌がらせか! 潰れる、こんな店! さ、ホテル帰ろ。

13時30分、真昼の暑い最中をフラフラ歩いて、ようやくホテル着。外より暑い部屋へ。元・冷えた腹から熱いウンコをひねり出す。

出すもん出したら、他にすることなく、また外に出る気も起こらず、灼熱地獄で一人我慢大会(これは駆け出しの自称プロ戦場特派員の成長物語です、2012年の俺からのお知らせでした)。

17時、あまりの暑さに気絶したのか、目が覚めると夕刻。喫茶店に寝起きのコーヒー(2

0 B) を飲みに行く。今日も何とか一日乗り切った気分になる。

カオサン通りをフラフラし、日本語で「日本人も大絶賛」と張り紙の出ている、なんとかラーメンでからあげ定食(60 B)とたまにはビール(60 B)で夕飯(計120 B)。予想通り、不味くて逆に納得がいく。

21時、セブンイレブンで買い物(16.5 B)してから、ホテルへ戻る。水シャワーをジャージャー浴びながら、せめて温かいシャワーをたまには浴びれる身分になりたいと願う、俺の金玉であった。

1時過ぎ、就寝。

○本日の出費、「計算するのが面倒臭いから、各々で適当にしといてよ」B。ついでに一日の流れも「いちいちうっとうしいから誰か簡単にまとめといて」ジャ〜。

『12年前日記 2000年1月3日(月)』

<http://p.booklog.jp/book/41813>

著者：山田夫妻

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/yamadafusai/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/41813>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/41813>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.